

《ご聖体を頂く意味は・・・》

お説教を始める前に、まず、今晚このミサに何ヵ国の方々が与っているか尋ねてみましょう。日本人？ ブラジル？ ペルー？ フィリピン？ ベトナム？ インドネシア？ そして韓国？。それ以外の方は？ メキシコ？ ありがとうございます。

とても意味のある《主の晩餐のミサ》になっているのではないかと思います。これも私達共同体が神様から頂いた大きな恵の一つだと思います。どの小教区やどの国においても、この様にたくさんの国の方々が同じカトリックの信仰によって集まって、神様を称えながら賛美することが出来る場所はこの世の中にどれ位あるでしょう。もちろんローマはありますね。それ以外は？ もしかするとこの太田は5つの指に入るかも知れません。ここは素晴らしい恵で包まれている共同体だと思います。

さあ、今日は2つのことを申し上げたいと思います。

イエス様は自分の運命、与えられたこの世での終わりが近づいていることを感じました。そして最後に自分に従って来ていた弟子達を集め、“最後の行い”を実行します。それは何でしたか？ “食卓を囲むこと”でした。皆で食卓を囲んで食事をするのでした。そしてその食卓で行われたのは何でしょうか？ そこで定められたものは何でしょうか？ 私達カトリック共同体の“心臓”、“ハート”の様なものです。それは何ですか？ 今日、第2朗読で読まれた内容です。“聖体の秘蹟”です。“聖体の秘蹟”が定められた日です。イエス様は聖体の秘蹟を定めて、その後何をなさったのですか？ 弟子達の足を洗って下さったのです。この2つのことを少し黙想してみましょう。

私達がご聖体を頂く一番大きな意味は何でしょうか。何故毎回ミサでご聖体を頂くのでしょうか。何故自分に罪があると感じたら告解室に入って許しの秘蹟を受けて、ご聖体を頂くのでしょうか。その意味は何でしょうか。一番大きな意味は？ 覚えておきましょう。一つはご聖体を頂く私達それぞれが具体的に、直接的にイエス様との“出会い”を求めるからです。それはイエス様自身がおっしゃったことです。「これは私の体である」と。多くの方がこのような意識を持ってご聖体を頂いていることは存じていますが、もっと具体的に感じて頂きたい。「キリストの体」という司祭の声を聞く前に、“震える心”で待っていて欲しいのです。震えながらご聖体を頂いた記憶はいつの頃のものだったのでしょうか。そして頂いて感謝で心が一杯になり、自分も知らないうちに涙が自然に流れ出た、その記憶は今までの人生の中で何回あったのでしょうか。もし“ご聖体”の姿ではなく、イエス様自身がこの祭壇の前に立たれて「これは私の体です、食べなさい」と言われたら、私達は声さえも出せないと思います。第一の目的、意味はイエス様と“一つになる体験”です。これは論理的には絶対説明出来ません。ただ体で、胸で、霊的なことによって体験するものです。その様に“イエス様の体”だと固く信じて“イエス様”を頂いたら、その後私達は何をするべきでしょうか。それが第二の意味です。それは何でしょうか？

「これは私の体である。これを食べなさい」ということは「私(イエス様)が自分の体を裂いてあなたの方の口に入れたのです。ですからあなた方もあなた方の体を裂いて必要な人に与えなさい」という意味です。このご聖堂の中でご聖体を頂き、聖なる姿となり聖なる体験が出来ても、後ろのドアから出た後は、この社会の人々と全く同じであつたらそれは、何よりもイエス様をもう一度殺すことになるのです。ご聖体はある意味において、ものすごく負担になるものです。何故なら自分が小さな動く“聖櫃(ひつ)”となるからです。自分自身がイエス様のおられる“聖堂”になるのです。もはや自分だけの体ではありません。だから私が外に出て、出会う全ての人々に出来るだけ“イエス様の体”を渡さなければならぬのです。それが私達死ぬまでの召命ではないでしょうか。全ての信者に与えら

れ、ただ無意識のうちに頂くものでは絶対にありません。ご聖体を頂く前に必ず「本当に私は相応しい心か」「この様な状態で司祭の前に手をのばし、ご聖体を手に取り、口に入れても良いのだろうか」といつも自問し、意識すべきだと思います。

時代は少しずつ変わりました。昔はこの様なことを強く強調しましたが、今では日常的な当然のこととして、司祭の手から渡されたご聖体をすぐ取って頂く様になっています。しかし時代がどんなに変わっても、環境がどんなに変わっても変わらないものが必ずあります。それを私達は一般的に“真理”と言います。“真理”である“イエス様の体”を私達が頂くために、いつも意識して準備された心で頂かなくてはならないと私は信じます。

今日は主の晩餐です。何故あの方は“最後の行い”を弟子達と食卓で交わることにしたのでしょうか。33年間イエス様が見せようとした全てのものが集約されていたもの、それが“食卓”です。信仰的に言いますとその食卓はキリストとの分かち合い、交わりを意味します。さあ、主の晩餐のミサに与っている私達、もう一度ご聖体について良く考えてみましょう。

2番目、皆様と分かち合いたいと思ったのは次の様なことです。“良く生きている”人々の姿を見る時、私たちはうらやましいと思います。“良く生きている”とはどういうことを言うのでしょうか。体が丈夫なこと？お金をたくさんもうける人々？テレビスターの様な有名人になること？そういうことを意味していません。私が申し上げようとする“良く生きている人”というのは、誰が見ても「あの人は格好良いな、あの人は素晴らしい生き方をしているな」と悟らせてくれる人々を意味します。全ての人々は宗教、信仰を持っているかどうかに関わらず、その人が意味深い生き方をしていれば、必ずその人に引っ張られます。「私もあの様な生き方がしたい、何故私はこの様な生き方をしていたのか」と色々な複雑な思いがします。

皆様をお願いしたいことはこれです。私達に与えられたこの一日、“意味”を作りましょう。もっと易しく言いますと“意味があるもの”を求めましょう。残された人生を格好良く生きましょう。自分が力強く握っているこのものが本当に自分を格好良くするものかどうか、意味がある人生を過ごすために邪魔になるものかどうかを考えましょう。結局、意識することです。私は皆様全員が“格好良い”と言われて欲しいのです。“格好良いこと”それは皮のことではありません。中身のことです。“あの人は格好良い”と言われる様なことがお互いに出来、その様な人生を送れば、私達がする全てのことがイエス様のみ心に適うものになると信じます。

皆様よく覚えて下さい。今、神様は皆様が気付かない何かの“賜(たまもの)”についていつも見ていらっしゃいます。皆様を一番格好良く出来るその賜を持っているのを良く知っていらっしゃいます。「何故私を与えたその賜を活かせないのか」その様なもどかしい心で皆様を見ていらっしゃると私は信じます。

今日、主の晩餐、そして色々な国の12人の方々の足を洗います。当時のイスラエル、ユダヤ人にとって足が意味するものは“汚さ”でした。一番汚いとされる足を他の人に触らせることはありませんでした。足は体の中で一番呪われた所でした。ですからイエス様がその足を選んだのです。私が本当にへりくだる心、自分を救ってくれるその心をもって、まず自分の足を洗いましょう。そして相手の足を洗おうとする意味のある生き方を求めましょう。

ありがとうございました。